

子どもに対する戦争を止める: 21 世紀の紛争の下で子どもたちを守る
Stop the War on Children: Protecting Children in 21st Century Conflict
概要(日本語)

“Every war is a war against children.”-「すべての戦争は子どもたちに対する戦争です」

これは、セーブ・ザ・チルドレンの創設者であるエグランタイン・ジェブの言葉です。創設後 100 年の時を経た今、彼女のこの言葉は、これまで以上に強く響いています。世界中で現在、何百万人も子どもたちが、彼らには何の責任もない紛争に巻き込まれています。子どもたちの権利はしばしば侵害され、その責任は全く問われることがありません。

セーブ・ザ・チルドレンが新たに提示する次のような事実は、事態が非常に深刻であることを示しています：

- 世界の子どもの約 5 分の 1 にあたる、4 億 2,000 万人の子どもたちが紛争地域に住んでいます。この数は、2016 年と比較し、3,000 万人近く増えています。
- 冷戦の終結以降、紛争地域に住む子どもの数は約 2 倍になりました。
- 1 億 4,200 万人の子どもたちが高強度の紛争地域¹に住んでいます。高強度の紛争地域とは、1 年間に 1,000 人以上の人々が紛争により命を落としている地域を指します。
- セーブ・ザ・チルドレンの新たな分析によると、国連により報告・確認された、紛争下における子どもの権利の「重大な侵害²」の件数は、2010 年以降ほぼ 3 倍になっています。
- 栄養不良、病気、そして医療・水道・衛生サービスの停止など、紛争の間接的な影響で毎年何十万人もの子どもが亡くなっています。

紛争下の子どもたちの保護は、21 世紀の取り組むべき明確な課題の 1 つといえます。私たちは、20 世紀に出された宣言、条約、及び法令で示された約束を、今実現しなければならないのです。

紛争の性質と、それが子どもに与える影響は変化しています。国内紛争が増加し、紛争に関わる武装勢力の数も増えています。学校が標的になること、少女たちが拉致され奴隷化されること、そして意図的に飢餓の状態を生み出すことなど、民間人に対する意図的な暴力行為が行われています。

そしてまた、武力紛争は長引く傾向にあります。例えば、近年、最も被害が大きな紛争であるシリア紛争は、第二次世界大戦よりも長く続いている状況です。紛争が長引くほど、必要不可欠なサービスが機能しなくなり、結果として間接的な被害も大きくなります。そして紛争の長期化により、「紛争」と「平和」の境界線はあいまいになっています。

さらに、紛争は都市化する傾向にあります。例えば、イラクのモスルやソマリアのモガディシュでは、子どもたち、住宅、そして学校が紛争の前線となり、無差別攻撃を受けやすくなっています。今日の武力紛争では、多くの場合、戦場はもはや明確に区切られておらず、子どもたちの暮らす家や通う学校も戦場となるのです。

¹ 高強度の紛争とは、紛争に関連する年間死者数が 1,000 人を超えるもの定義されています。

² 2005 年、紛争下における「6 つの形態の子どもの権利の重大な侵害行為」を監視し報告する仕組みと、作業部会の設置を求める安保理決議 1612 号が、国連安全保障理事会により決議されました。6 つの重大な権利侵害とは、①子どもの殺害と傷害行為、②子どもへの徴兵と利用、③子どもに対する性的暴力、④子どもの誘拐、⑤学校や病院に対する攻撃、⑥子どもに対する人道支援のアクセスの拒否、を指します。

戦争にさらされる子どもたち

以前にも増して、子どもたちが、武力による暴力や戦争の矢面に立たされるようになっていきます。紛争下の子どもたちは、身体的な弱さ、それにより多くの危険に直面する可能性があることなどから、大人とは異なる形で苦しんでいます。彼らの身体的、精神的および心理社会的発達、どのような子ども時代を経験したかによって大きく左右されます。

紛争は、子どもたち一人ひとりに、それぞれ異なる影響を及ぼします。性別や年齢の影響はかなり高く、それに加え障害の有無、民族、宗教、さらには農村部と都市部など、居住地域によっても異なる影響を与えます。武力紛争で子どもが受ける被害は、大人の被害よりも深刻な場合が多く、子ども自身だけでなく、社会にとってもより長期的に悪影響をもたらします。子どもたちは特に次の3つの形で苦しんでいます。

子どもたちは意図的に標的にされる可能性があります。

子どもに対する残虐行為は、人々を恐怖に陥れる非常に有力な方法です。したがって、今日の多くの紛争で、軍隊や武装集団は、彼らにとって好ましい軍事戦術として子どもへの残虐行為を行います。また、子どもたちは、容易に操られ搾取しやすいため、例えば兵士や自爆テロの当事者として利用される可能性があります。さらに、学校も戦術的な理由、例えば兵士の募集の場として、あるいは学校そのものを軍事目的で使用するために、軍事利用の標的となります。

子どもたちは、無差別攻撃や過度な軍事行動の脅威にさらされています。

例えば、地雷や人口密集地域では広範囲に被害をもたらす爆発兵器の使用により、殺害されたり、怪我を負わされたりする可能性があります。

子どもたちは、紛争の間接的な影響により、大きな被害を受けます。

市場の閉鎖、医療・水道・衛生など必要不可欠な公共サービスの停止など、広範囲にわたる不安定な状況から、強制的に住まいを追われる可能性もあります。間接的影響と直接的な暴力行為は、どちらも現代の紛争が子どもたちに加える一連の危害ですが、紛争の間接的影響の方が、より多くの子どもに悪影響を及ぼし、死に至らしめます。さらに多くの子どもたちが、就学の機会を失い、結果としてより良い未来の可能性が閉ざされています。

コンプライアンスの危機

この報告書が主張しているのは、ある特定の権利が喪失していることが、主に紛争下の子どもたちを苦しめているというわけではないということです。むしろ、子どもたちの権利(を保護するという義務)が順守されないという、「コンプライアンスの危機」が原因で、子どもたちは苦しんでいるのです。武装勢力—多くの場合政府軍の兵士も含まれますが—は、子どもに対して暴力をふるっています。そして、そのような子どもたちは、国際的な関心を集めているわけでもなく、最悪の場合は国際社会が彼らへの暴力に加担することもあるのです。

今日紛争下の子どもたちが直面している危機には、次の3つの重要な側面があります。

- 国家および非国家武装勢力は、自身の行動において基準の順守を怠っており、また同盟国や影響力を持つ他者も、彼らに対して順守するよう主張していません。
- 各国政府は、暴力の加害者を拘束し、彼らが犯した罪の説明責任を追求するための行動をほとんど取っていません。
- 紛争下の子どもを保護し、子どもたちの回復を支援するための、現地での具体的な活動に対し十分な投資が行



われていません。

しかし、希望がないわけではありません。政府や他の勢力が、高い基準を守ることを目指すとは決断すれば、暴力を抑制するルールや法律、規範等が策定されていくことを、私たちは目の当たりにしてきました。政府や国際機関がアカウンタビリティ³を真剣に考え、それらに取り組んだ場合は、暴力の加害者は処罰されてきました。そして、政府や多国間機関が現地での具体的な活動に投資すれば、子どもたちは保護され、命が救われてきたのです。

この報告書『子どもに対する戦争を止める(Stop the War on Children)』は、紛争下の子どもを守るための国際的な行動計画の基礎となるものです。各国の指導者と政府は、果たすべき大きな役割があります。私たちは各国のリーダーに対し、次のことを求めます。

- 紛争下における行動基準を守ること
- 暴力の加害者に対し、アカウンタビリティ⁴を果たさせること
- 子どもを保護し、紛争の影響からの回復を支援するための具体的な行動をおこすこと
(詳細な提言については、報告書本文(英語)54 ページを参照)

子どもの権利という理念を最初に提唱したエグランタイン・ジェブが、その仕事に取り組み始めてから 100 年、そして、国連子どもの権利条約が誕生してから 30 年が経過します。2019 年 9 月に実施される第 74 回国連総会は、各国政府が、具体的な行動への公約を通じ、紛争下にある子どもたちを保護することを改めて約束する最良の機会となります。

世界のあらゆる紛争地域に住む子どもたちのために、今すぐ行動を起こすべきです。

³ アカウンタビリティ:「説明責任」と訳されることが多いですが、ここでは本来の意味である「説明する責任のみならず、結果生じた事象に対する責任をとること」を指しているため、そのままカタカナで表記しています。

⁴ 同上

